

(著作権の関係上、ホームページ上に掲載することができない資料を一部割愛しております)

平成30年6月27日(水)  
平成30年度 第1回  
大阪府立狭山池博物館運営審議会

資料  
1

# 平成30年度 第1回 大阪府立狭山池博物館運営審議会



# 狭山池博物館運営審議会スケジュール（案）

諮問：大阪府立狭山池博物館の効果的、効率的な運営について

第1回 H29.11.15

- ・博物館の現状把握

第2回 H30.3.8

- ・検討課題の抽出（運営・連携体制、情報発信強化、資源活用と利用者サービス向上、コスト縮減と収入確保）

⇒（委員意見）

博物館が目指す目標設定が必要。どのように改善するのか。

第3回 H30.6.27

- ・効果的・効率的な運営に向けた方向性
  - ①博物館の意義と目指すべき方向性
  - ②ターゲットを定めた今後の方向性
  - ③収支改善方策検討の方向性

第4回 H30.9（予定）

- ・効果的・効率的な運営に向けて（素案）

【目次】

1. 現状と課題
2. 運営の方向性
3. 具体的な運営方法の改善
4. 新たな収入確保に向けた取組み

第5回 H31.1（予定）

- ・効果的・効率的な運営に向けて（答申）

# 平成30年度第1回狭山池博物館運営審議会資料

## 目 次

### 1. 博物館運営の現状等

#### 1-1. 概要

#### 1-2. これまでの運営経過

#### 1-3. 現状と課題

#### 1-4. 効果的・効率的な運営に向けたさまざまな検討の視点

### 2. 検討課題解決に向けた方向性

#### 2-1. 狭山池博物館の意義と目指すもの

#### 2-2. 博物館プレゼンスを高める戦略的取り組み

### 3. 効果的・効率的な運営に向けて

# 1. 博物館運営の現状等

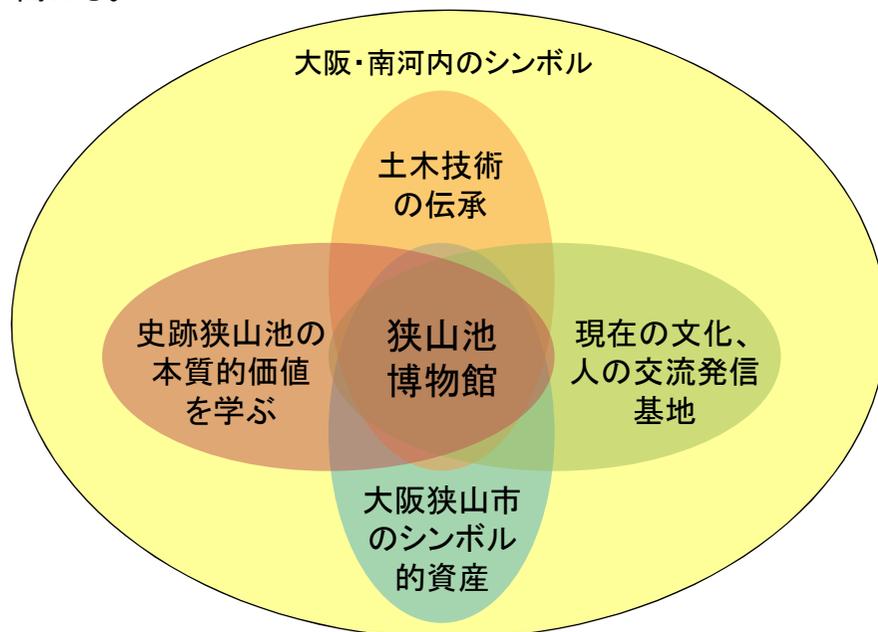
# 1-1. 概要

## ○条例上の設置目的

・狭山池の治水及びかんがいに関する資料等を収集し、保管し、及び展示して府民の利用に供し、もって土木事業の歴史的役割に関する府民の理解を深めるとともに、府民の文化的向上に資する。

## ○協働運営の方針

- ・貴重な土木遺産と土木技術、土地開発史として歴史と文化の継承の意義を高め、保存技術を駆使し後世に広く伝える。
- ・民俗学視点から池文化と郷土の歴史、文化のマッチングを図り、郷土文化の保存継承、価値を高める。
- ・生涯学習・学校教育支援とともに、現在の文化、人の交流の発信基地としてその価値を高める。
- ・狭山池・狭山池博物館は大阪狭山市民にとって「街のシンボリック資産」と捉え、府、市民の共有財産としての意識と資産価値を高める。



運営の方針イメージ

## ○常設展示

狭山池特有の価値

- ・飛鳥時代に築造された日本最古の人工の溜め池
- ・各時代の改修
- ・現在まで続く機能



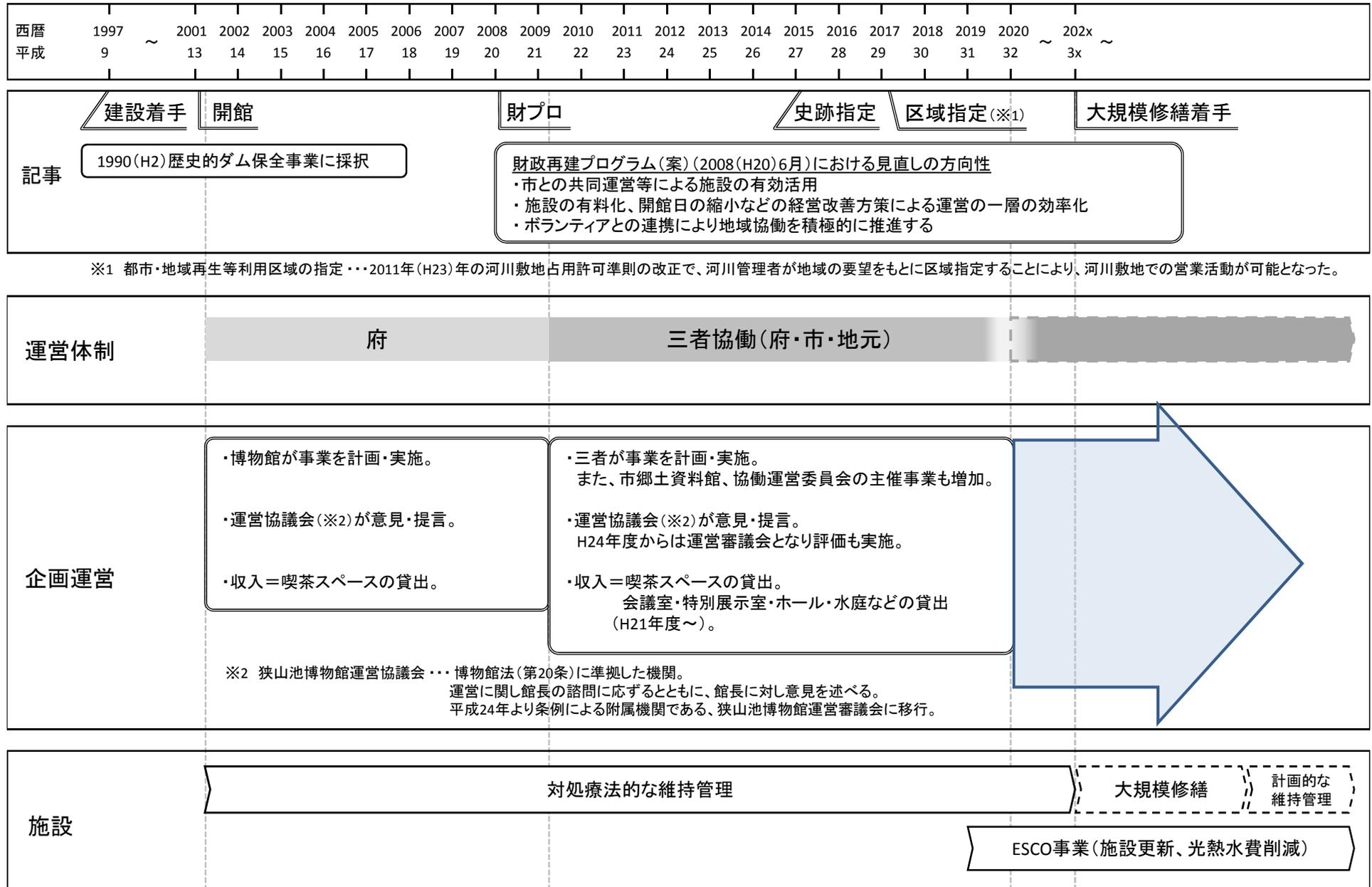
## ○特別展、企画展、イベント等

- ・狭山池及び周辺地域に関する活用  
特別展、郷土資料館特別展、池守田中家文書関連展示  
歴史学セミナー、公開講座 等
- ・土木技術に関する展示  
土木遺産展、鉄道模型展 等
- ・現在の文化、人の交流発信の場として活用  
昆虫展、ホネ展  
書き初め展、子ども絵画コンクール、高校生芸術展  
フレッシュコンサート(津軽三味線・寄席・オカリナ)  
博物館ボランティア(ガイド、歴史ウォーク、グッズ作成) 等

## ○狭山池及び狭山池博物館における地域活動

- ・狭山池まつり実行委員会が実施  
狭山池生誕祝祭「灯火輪」…年に一度狭山池が「在ること」をお祝いする  
狭山池まつり  
クリーンアクション(狭山池、水庭清掃、水質検査活動)
- ・池の駅プロジェクトさやま(市民の有志で活動)が実施  
クリエイティブフラッグ…狭山池のもつ魅力をアーティストと共に引き出してゆく試み  
さやま手つなぎマルシェ 池の駅…狭山池堤やその周辺でのアート・クラフト市
- ・狭山池さくら満開委員会が実施  
桜の植樹  
バタフライガーデン

# 1-2. これまでの運営経過



# 1-3. 現状と課題

**検討の背景** 狭山池博物館は平成13年3月に開館以降、平成30年2月末現在、約150万人の来館者が訪問し、狭山池をめぐる人と土と水の物語を、展示物から感じとっていただいている。しかしながら、建設後17年を経て、施設の老朽化も進み、ESCO事業の活用による光熱費の縮減等コスト縮減は行っている一方、府有施設の総量最適化の観点から、更なるコスト縮減策と新たな歳入確保に向けた方策の検討など、より効果的・効率的な運営を検討することが求められている。

## 運営の現状

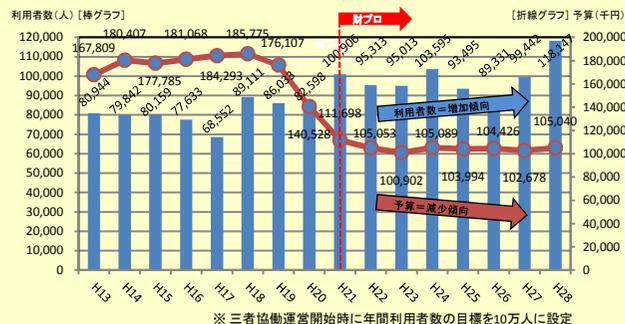
### ● 展示、所蔵品等

- ・北堤堤体断面
- ・狭山池出土木樋（国重要文化財）
- ・重源狭山池改修碑（国重要文化財）
- ・池守田中家文書 など

### ● 地域と協働した運営体制（三者協働運営）



### ● 来館者数 102,306人（3ヶ年平均・H26～28）、運営予算 約100,000千円（H28）



### ● 成果の発信

- ・企画展の開催や公開講座などの事業展開
- ・小学生の団体見学や中学生の職業体験等による学校支援 など

### ● 来館者満足度（H28アンケート調査）

（アンケート項目）	満足	どちらかと書えれば満足	どちらかと書えれば不満	不満
博物館全体の雰囲気	60%	35%	2%	3%
常設展示の内容	55%	37%	7%	1%
スタッフの対応	55%	34%	7%	4%
博物館の施設や設備	58%	33%	6%	3%
博物館へのアクセス	41%	30%	21%	8%

## 運営上の課題

### <利用者サービスの低下の恐れ> <厳しい運営環境>

#### ● 運営体制（三者協働運営）

- ・運営に携わるスタッフ高齢化と後継者不足
- ・現在の運営枠組みでの工夫は限界に到達。スタッフの疲弊が深刻。

#### ● 基幹となる業務

##### 収集・保管・展示

- ・資料の寄託・寄贈の提案を数多く受けているが、対応できる体制がとられていない。
- ・展示会の予算減、学芸員も減り負担増。
- ・土木の専門職の常駐体制がとられていない。

##### 調査研究

- ・古文書の翻刻など調査研究の滞り。

##### 企画

- ・現状の人員、予算で、最大限工夫しながら実施。

#### ● 利用者からの要望

- ・アクセス性の改善が必要（博物館の駐車場がない、駅からのアクセスが不明瞭など）
- ・子供や外国人にとっても理解しやすい展示が必要。

#### ● 運営への指摘事項

##### □ 公共施設等の最適な経営管理（ファシリティマネジメント）による点検

###### <総量最適化・有効活用>

- ・将来の利用需要に応じた施設の有効活用や、総量の最適化の観点から、施設の撤去・廃止を含めて点検。

###### <長寿命化>

- ・築後70年の更新を目指した施設の長寿命化を推進、維持・更新経費の軽減・平準化を図る。

評価⇒ 継続審議（更なるコスト縮減策と新たな歳入確保に向けた方策の検討が必要）。  
※方針決定まで施設の予防保全が保留。

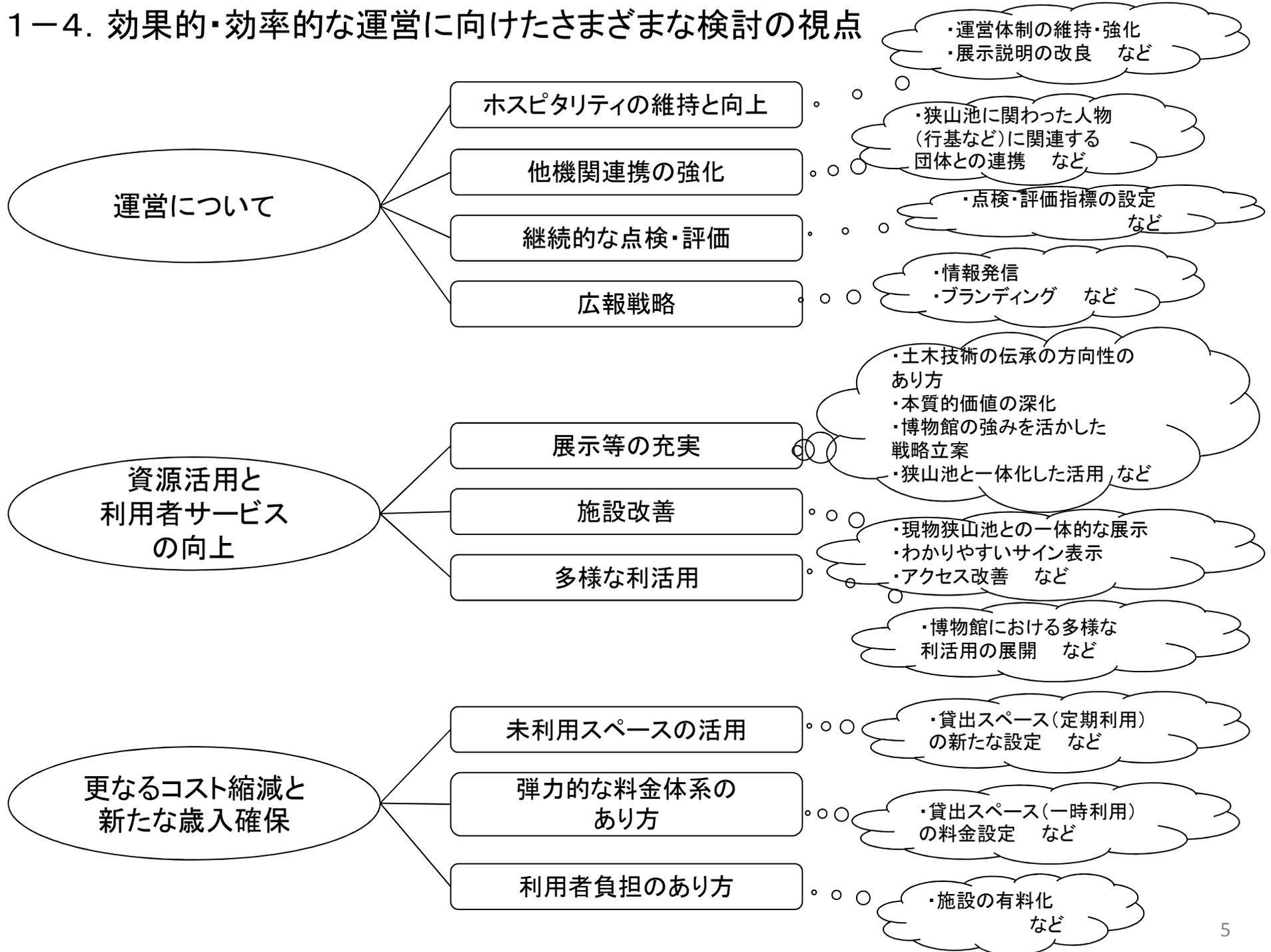
#### ・平成27年度 定期監査

⇒ 効率的及び効果的な運営について、経営の専門家の意見も取り入れた形で議論をすること。

#### ・財政再建プログラム（案）（平成20年6月）における見直しの方向性

- ⇒ ・大阪狭山市との共同運営等による施設の有効活用
- ・施設の有料化、開館日の縮小などの経営改善方策による運営の一層の効率化
- ・ボランティアとの連携により地域協働を積極的に推進する

# 1-4. 効果的・効率的な運営に向けたさまざまな検討の視点



## **2. 検討課題解決に向けた方向性**

## 2-1. 狭山池博物館の意義と目指すもの(ここにしか無い”土木”とまちのシンボル)

西暦	1997	~	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	~	202x	~
平成	9		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	~	3x	~
	建設着手		開館								財プロ		史跡指定		区域指定		大規模修繕着手								
運営体制	府						三者協働(府・市・地元)						三者協働(+α)						...						

意義 狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容と意義を後世に伝える

土木の役割・意義の発信と将来に向けた展開・発展

### 土木・歴史

#### ■ 土木の歴史と価値を伝える

・ 貴重な歴史遺産と土木技術、土地開発史として歴史と文化の継承の意義を高め、保存技術を駆使し後世に広く伝える。

⇒ ・ 先人たちが地域の安寧と発展に注いだ熱い思いの伝承  
 <土木技術者へのメッセージ>  
 <狭山池の歴史の伝承>

・ 土木事業やかんがい事業の意義の訴求  
 <土木への府民理解の推進>

⇒ 歴史的ダム保全事業により  
 土木主体の博物館を建設【日本で唯一】



堤体断面展示

<博物館建設成功の因>

- ・ 狭山池が土木工事の歴史的遺産
- ・ 産・学・官の連携による建設
- ・ 地元からの期待と支援(地域の財産)
- ・ 国の理解と支援(土木事業への期待)
- ・ トップの歴史・文化的センス(土木博物館)
- ・ 時代背景(好景気・公共事業費の上昇)

重源狭山池改修碑(国重要文化財)



これまでの土木

### 土木・歴史 教育・郷土魅力

#### ■ 歴史を通じて土木の役割を伝え、 将来の発展につなげる(プラットフォーム)

・ 土木事業・技術の広報、新たな土木技術の発信  
 狭山池研究成果の発信(展示・情報発信機能)  
 (関連団体との連携(学会、大学、建設業界))  
 → 将来を担う技術者の育成

・ 生涯学習・学校教育支援(教育学習・一般参加)  
 (教育関係団体との協働(小中学生の課外授業受入等))

収集保存機能・調査研究  
 史跡資料・土木資料のストック・活用

今と将来の土木

土木・歴史  
+防災

「コミュニケーション」  
「プレゼンテーション」

「アーカイブス」

相互  
連携

- 展示・情報発信
- 新技術等のPR
- 教育学習・一般参加

- 収集保存
- 調査研究

(小学生 校外学習風景)



現在の文化、人の交流の場として活用  
 まちのシンボリック資産となり、  
 まちの価値を高める

### 地域魅力創造

#### ■ まちの財産・シンボルとして地域を活かし、 一緒に育つ

・ 「まちのシンボリック資産」価値の創造(ブランディング)  
 (安藤建築、日本最古のダム式ため池)  
 <地域の顔づくりプロジェクト>

・ 「現在の文化、人の交流拠点」としての場の創造  
 (三者協働運営による新たなインフラ管理)  
 <地域協働の推進> <シビックプライドの醸成>

・ 「狭山池の更なるプレゼンス向上」支援(コア・ミュージアム)  
 (国史跡指定、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録)  
 <大阪狭山市や市民との連携による、まちのシンボル拠点形成>



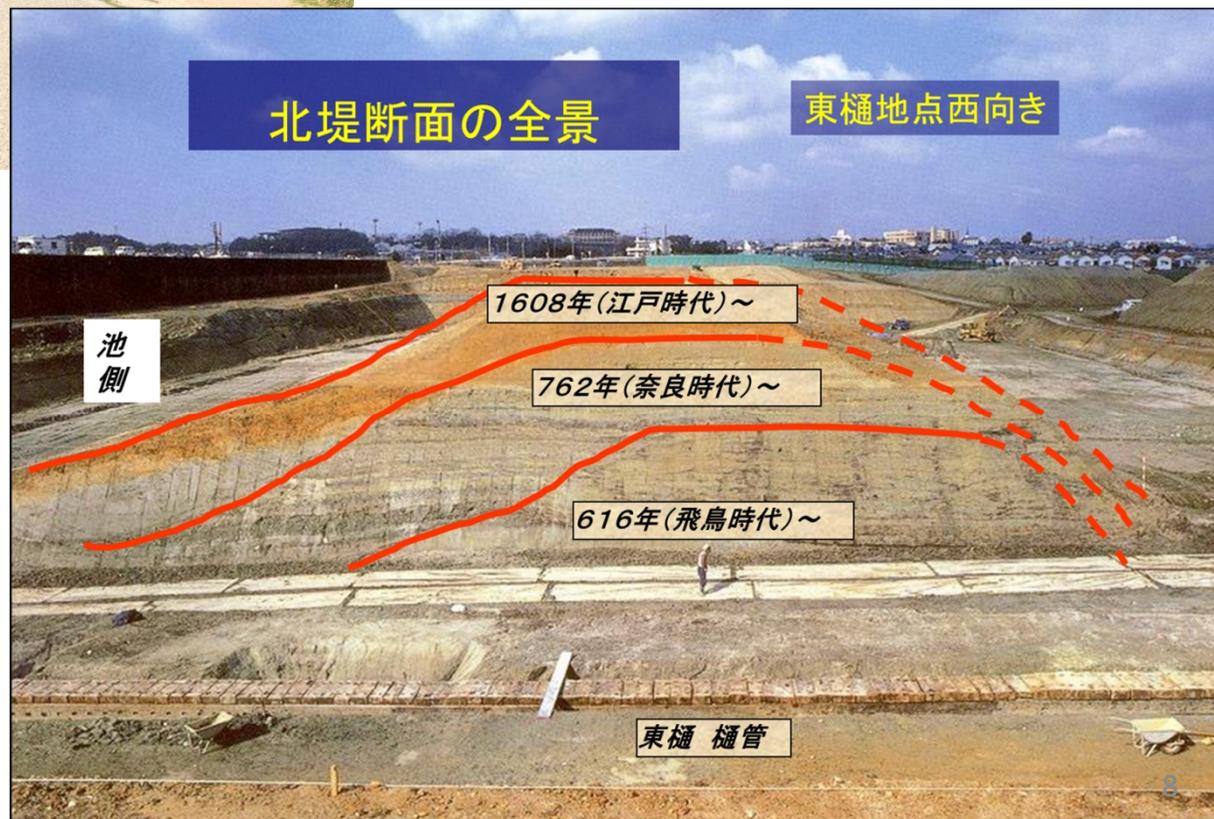
史跡狭山池の調査・研究、成果のアーカイブ

北堤上西向きに撮影（平成29年7月）



北堤断面の全景

東樋地点西向き



池側

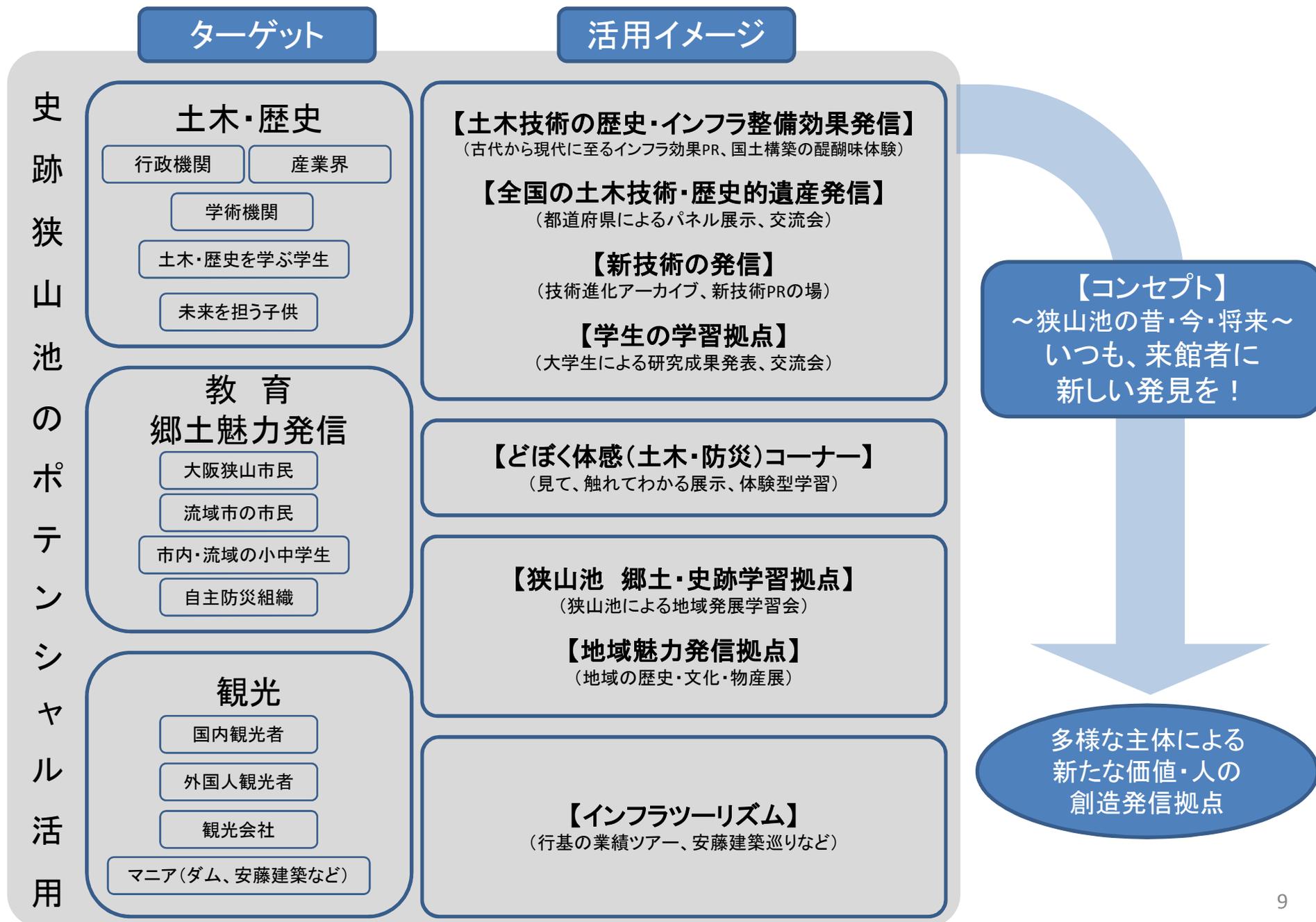
1608年(江戸時代)~

762年(奈良時代)~

616年(飛鳥時代)~

東樋 樋管

## 2-2. 博物館プレゼンスを高める戦略的取り組み



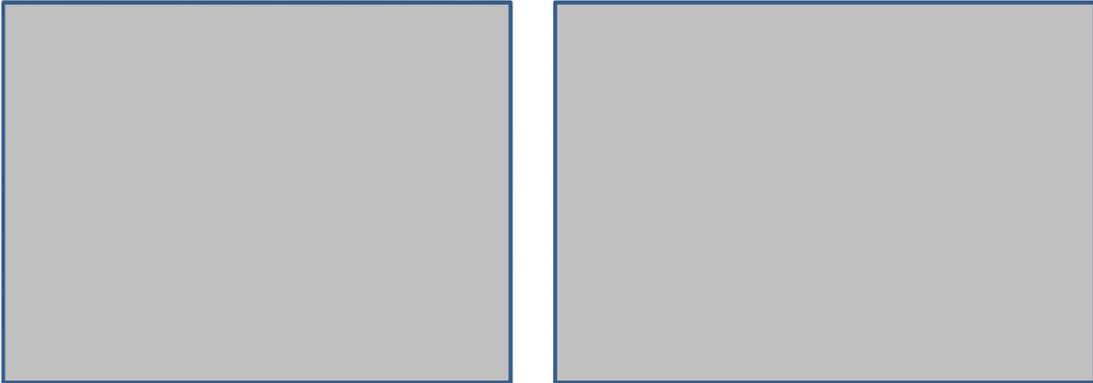
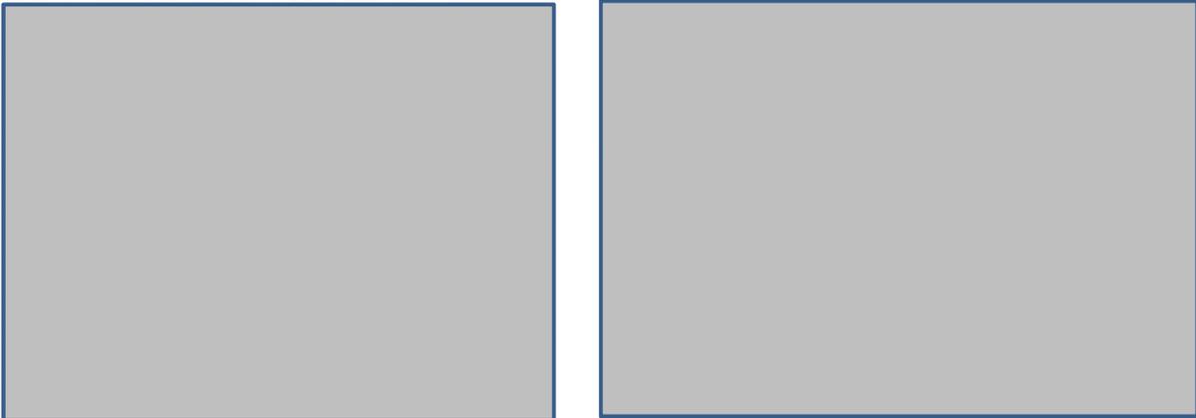
# 【参考】博物館の効果的な発信イメージ（狭山池博物館の具体的施策イメージ）

( 1/4 )

【土木技術の歴史-インフラ整備効果発信】	
 <p>第1ゾーン</p>	<p>【VRを活用し、仮想空間と現実空間の融合】 ⇒狭山池の誕生から、行基、重源、片桐且元の堤体改修プロセスを体験</p> <p>ターゲット:土木・歴史を学ぶ学生</p>  
 <p>第5ゾーン</p>	<p>【デジタルサイネージによるインフラ整備効果PR】 ⇒狭山池築造による宅地化の進展の可視化(国土構築の醍醐味を体験)</p> <p>ターゲット:土木・歴史を学ぶ学生 未来を担う子供</p>  

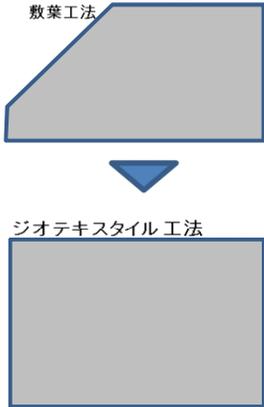
# 【参考】博物館の効果的な発信イメージ（狭山池博物館の具体的施策イメージ）

( 2/4 )

【全国土木技術・歴史的遺産の発信】	
 <p>どぼくランド</p>	<p><b>【連携施設とのどぼく展の共催】</b> ⇒琵琶湖疏水資料館など他の博物館等の展示物を使った技術PR</p> <p>ターゲット：産業界、学術機関 行政機関</p> 
 <p>特別展示室</p>	<p><b>【全国どぼく展の開催】</b> ⇒土木遺産「清洲橋」の模型展示などを実施</p> <p>ターゲット：行政機関</p> 

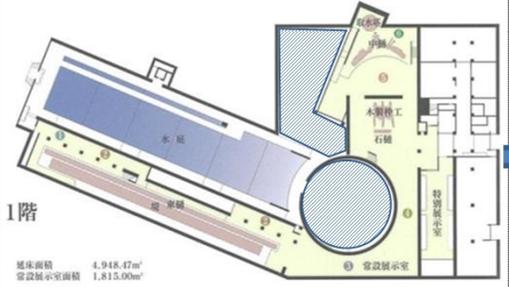
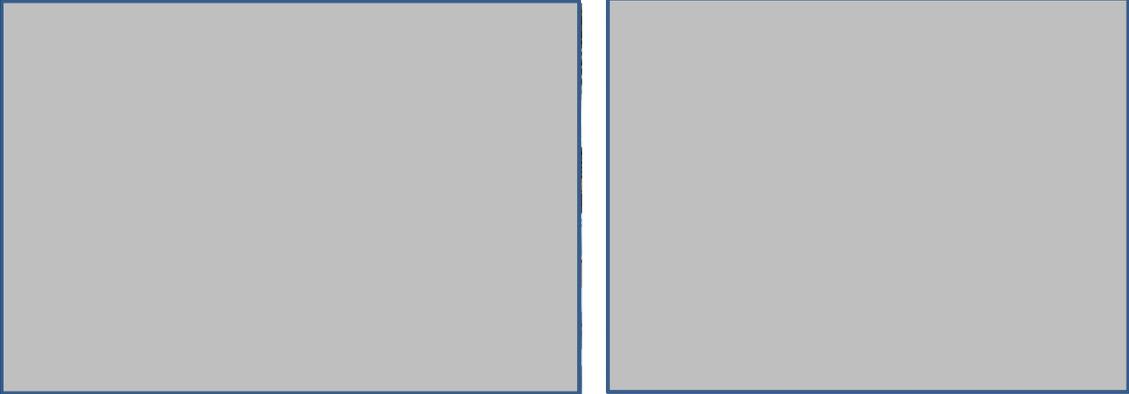
# 【参考】博物館の効果的な発信イメージ（狭山池博物館の具体的施策イメージ）

( 3/4 )

【新技術の発信】		
 <p>第2ゾーン</p>	<p>【デジタルサイネージを活用した最新技術PR展】 ⇒地盤改良工法の最新技術の紹介など</p> 	<p>ターゲット：産業界</p>  <p>敷設工法</p> <p>ジオテキスタイル工法</p>
 <p>第3ゾーン・第4ゾーン</p>	<p>【デジタルライブラリーを活用したダム建設技術紹介】 ⇒最新ダム技術の発信</p>  <p>デジタルライブラリー</p>	<p>ターゲット：産業界</p>  <p>(巡航RCD工法)</p>

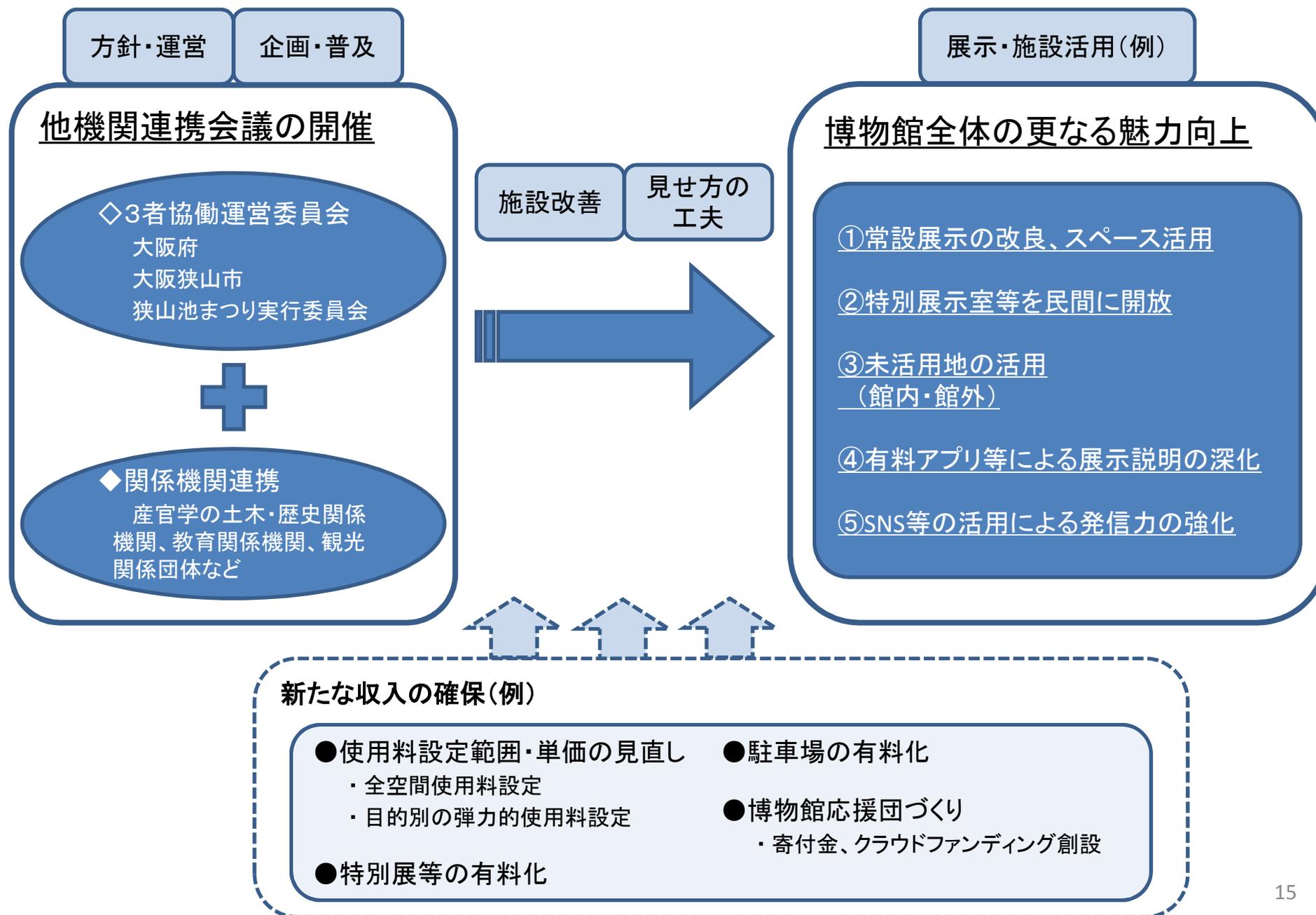
# 【参考】博物館の効果的な発信イメージ（狭山池博物館の具体的施策イメージ）

( 4/4 )

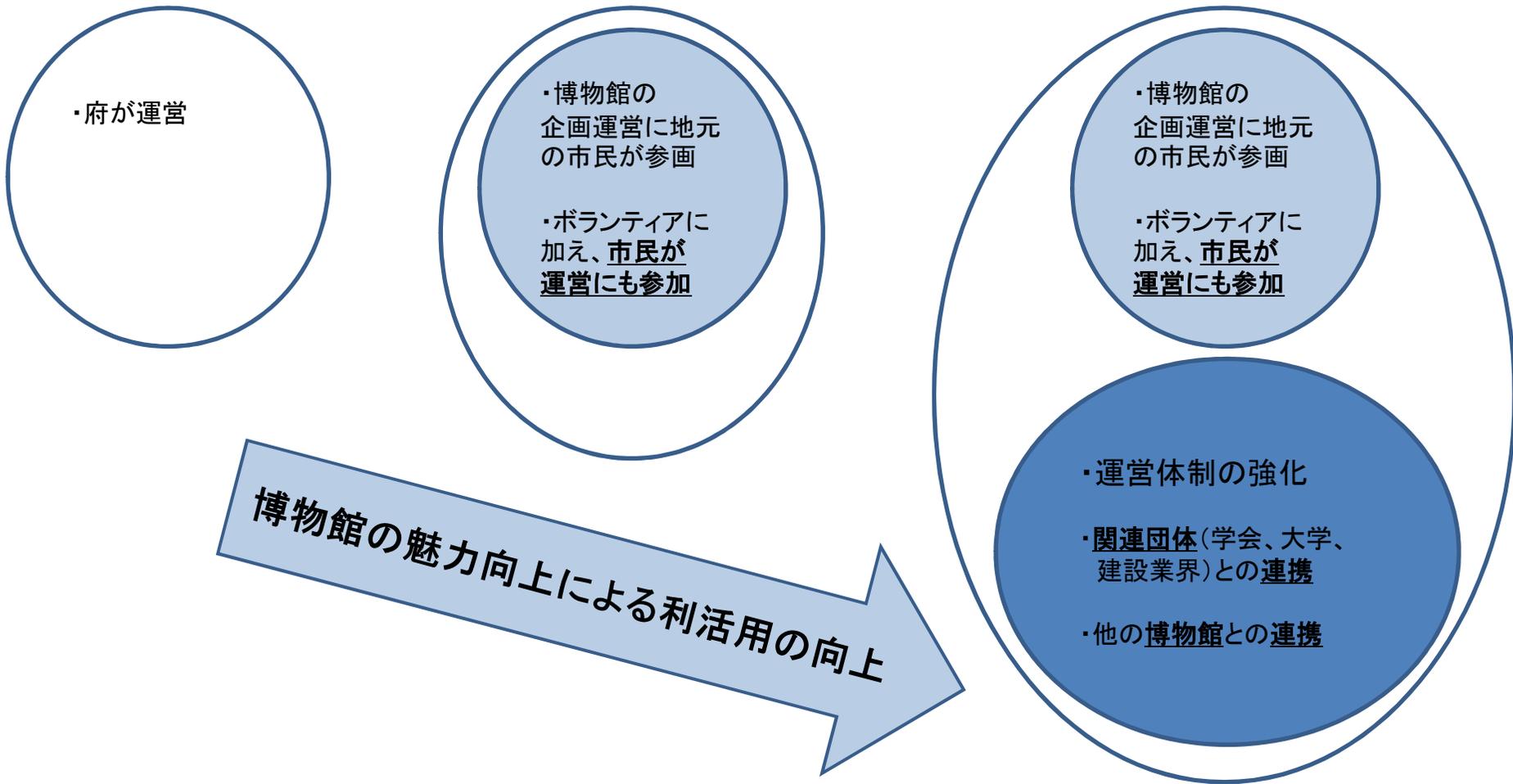
<p><b>【学生の学習拠点】</b></p>  <p>ホール</p>	<p><b>【どぼく研究リーグ戦の拠点化】</b> ⇒大学研究室のポスターセッションやワークショップの開催</p> <p>ターゲット：土木・歴史を学ぶ学生</p> 
<p><b>【どぼく体感(土木・防災)コーナーとしての利用】</b></p>  <p>コート</p>	<p><b>【屋外スペースの学習活用】</b> ⇒アーチ橋の組立体験等</p> <p>ターゲット：未来を担う子供</p> 

### **3. 効果的・効率的な運営に向けて**

### 3. 効果的・効率的な運営に向けて（狭山池博物館の今後の展開）



# 【参考】博物館全体の更なる魅力向上



# 【参考】博物館の効果的な発信イメージ（狭山池博物館のスペース活用計画）



**第2ゾーン**  
「狭山池の誕生」  
敷葉工法の展示等を行っているゾーン。  
敷葉工法に関連し、地盤補強工の新技术に関する展示の追加を目指す。



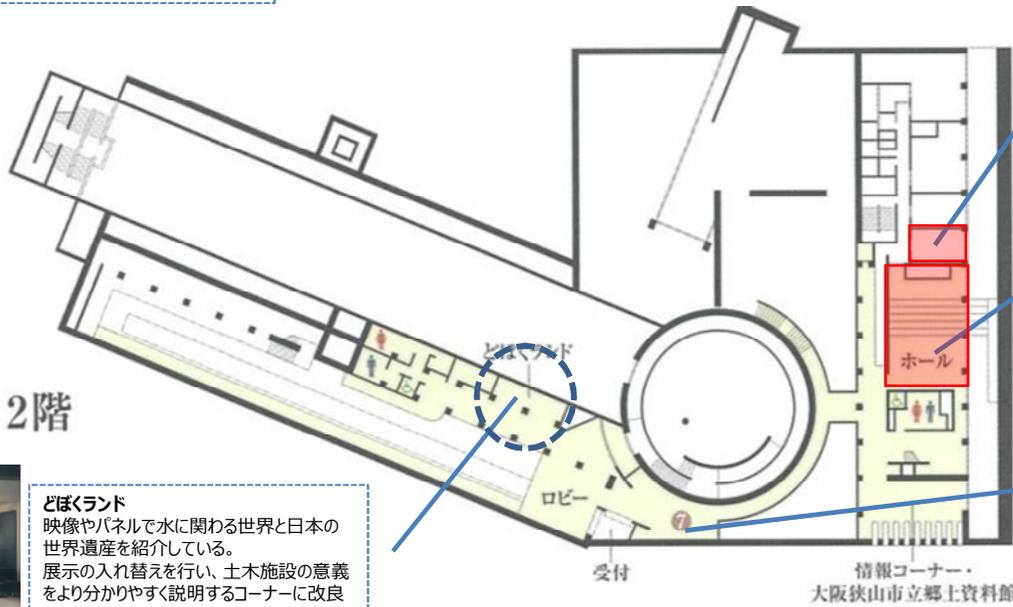
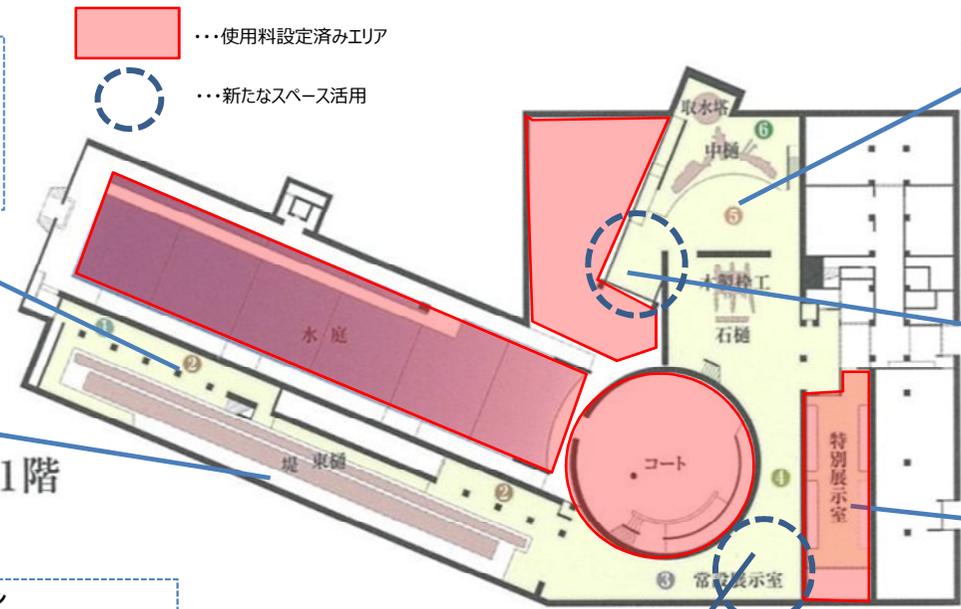
**第1ゾーン**  
「狭山池への招待」  
堤体断面を間近に見られる細長いゾーン。  
狭山池の歴史を感じられるようなARやVRを活用した展示の追加を目指す。



**第3/第4ゾーン**  
「古代/中世の土地開発と狭山池」  
行基や重源の改修を紹介するゾーン。  
既存展示の再配置を行い、ミニ講演会を行えるスペースを作ることを目指す。



**どほくランド**  
映像やパネルで水に関わる世界と日本の世界遺産を紹介している。  
展示の入れ替えを行い、土木施設の意義をより分かりやすく説明するコーナーに改良することを目指す。



**第5ゾーン**  
「近世の土地開発と狭山池」  
灌漑範囲の変化を示す地形模型等があるゾーン。  
狭山池の治水と利水の役割をさらに分かりやすく説明する展示の追加を目指す。



**第5ゾーン (小規模スペース)**  
小規模な企画展等に使用しているゾーン。  
キッズコーナーとして、子供向け展示を行うことを目指す。



**特別展示室**  
企画展示に使用しているゾーン。  
引き続き中長期間の展示に使用する。

**会議室**  
ホールの準備室としての一体貸出や、小規模な会議やワークショップのための使用を目指す。



**ホール**  
講演会やコンサート等に使用しているゾーン。  
土木関係の短期間の展示や交流会へも使用することを目指す。



**第7ゾーン**  
「平成の改修」  
ダム化の内容と意義を説明するゾーン。  
狭山池ダムの治水効果についてより分かりやすい展示の追加を目指す。

○ (参考) 取り組みの目標設定と評価

